

第4章 配偶関係

1 配偶関係別割合

未婚率は男性が高く、死別率は女性が高い

平成 17 年の 15 歳以上人口（男性 153 万 4757 人、女性 152 万 8730 人）を配偶関係別にみると、有配偶者は男性が 86 万 9399 人、女性は 87 万 1672 人で、15 歳以上人口に占める割合（有配偶率）はそれぞれ 58.9%、59.4%となっています。未婚者の割合（未婚率）は、男性が 34.0%、女性が 24.7%と、男性の方が高くなっています。一方、死別者の割合（死別率）は、男性が 2.2%、女性が 10.2%と、女性の方が高くなっています。これは、一般に男性は結婚年齢が高く、女性の平均寿命が長いことによるものと思われます。また、離別者の割合（離別率）は男性が 3.0%、女性が 4.6%となっています。（表 4 - 1）

未婚率は低下傾向、死別率、離別率は上昇傾向

配偶関係別割合の推移をみると、有配偶率は昭和 30 年（男性 54.9%、女性 55.8%）以降、男女とも上昇傾向を示し、男性は昭和 55 年の 64.1%、女性は昭和 50 年の 67.7%まで上昇しました。その後は低下傾向となり、平成 12 年と比べ、平成 17 年は男性が 58.9%と 0.3 ポイント上昇したものの、女性は 59.4%と 0.5 ポイント低下しています。

未婚率は、男性が昭和 40 年の 41.3%、女性は昭和 35 年の 29.2%をピークに低下傾向となり、その後男女とも一時的に上昇傾向を示しますが、男性は平成 7 年に、女性は平成 12 年に再び低下に転じ、平成 17 年は男性が 34.0%、女性が 24.7%となっています。

死別率は、昭和 40 年から 50 年代以降、男性は 1%台、女性は 9%前後とほぼ横ばいで推移していましたが、平成 7 年以降は男女とも若干上昇し、平成 17 年は男性が 2.2%、女性が 10.2%となっています。

離別率は、昭和 50 年まではあまり変化はありませんでしたが、55 年以降は男女とも上昇傾向にあります。（表 4 - 1）

表 4 - 1 15 歳以上人口の配偶関係別割合の推移（大正 9 年～平成 17 年）（%）

年次	配偶関係別割合								年齢構成を標準化した配偶関係別割合							
	男				女				男				女			
	未婚	有配偶	死別	離別	未婚	有配偶	死別	離別	未婚	有配偶	死別	離別	未婚	有配偶	死別	離別
大正 9 年	39.2	54.5	4.4	1.9	22.6	62.5	12.6	2.3	20.3	65.2	12.0	2.5	10.5	56.5	30.5	2.5
14 年	35.5	57.8	4.9	1.8	19.9	65.5	12.8	1.9	17.7	67.0	13.0	2.3	8.6	57.5	31.8	2.1
昭和 5 年	37.2	57.4	4.3	1.2	23.7	62.7	12.3	1.4	18.8	67.5	12.2	1.5	9.9	57.2	31.2	1.6
10 年	38.8	55.7	4.1	1.3	26.7	59.3	12.4	1.6	19.6	67.1	11.5	1.7	11.0	56.0	31.1	1.8
15 年	41.7	53.3	5.0		27.8	58.2	14.0		20.2	67.1	12.7		11.7	56.4	32.0	
25 年	39.4	56.1	3.6	0.9	27.8	56.1	14.2	1.8	19.8	69.3	9.8	1.1	12.9	54.3	30.9	1.9
30 年	40.9	54.9	3.0	1.1	29.1	55.8	13.1	2.1	20.4	69.4	8.8	1.4	14.2	54.4	29.2	2.2
35 年	41.2	55.2	2.5	1.0	29.2	56.9	11.7	2.1	20.6	70.5	7.5	1.4	14.6	55.7	27.3	2.5
40 年	41.3	55.8	1.9	1.0	28.2	59.8	10.1	1.8	20.4	71.8	6.2	1.4	14.3	58.3	25.2	2.2
45 年	38.2	59.3	1.6	0.9	24.8	63.9	9.5	1.9	20.4	73.2	5.1	1.3	14.0	60.3	23.3	2.3
50 年	33.4	64.0	1.6	1.0	21.4	67.7	9.1	1.9	21.2	73.0	4.5	1.2	14.5	62.3	21.0	2.2
55 年	32.4	64.1	1.6	1.2	21.9	66.7	8.9	2.2	23.0	71.2	3.7	1.4	15.7	63.0	18.3	2.5
60 年	34.9	61.3	1.7	1.6	23.8	64.2	9.1	2.6	25.5	68.8	3.3	1.8	17.0	63.1	16.7	2.8
平成 2 年	36.7	58.9	1.7	1.8	26.1	61.6	8.8	2.7	27.4	66.9	2.9	1.9	18.7	63.0	14.5	3.0
7 年	36.5	58.4	1.8	2.1	26.3	60.6	9.3	3.2	29.8	64.1	2.7	2.2	20.7	62.1	13.2	3.3
12 年	35.1	58.6	2.0	2.6	25.7	59.9	9.7	3.8	31.7	61.4	2.5	2.6	22.7	60.7	11.6	3.9
17 年	34.0	58.9	2.2	3.0	24.7	59.4	10.2	4.6	34.0	58.9	2.2	3.0	24.7	59.4	10.2	4.6

注) 標準化した配偶関係別割合は、平成 17 年の男女、年齢（5 歳階級）別 15 歳以上人口を標準人口として計算したもの、すなわち、15 歳以上人口の年齢構成が仮に平成 17 年の年齢構成と同じであったとした場合に、配偶関係別割合がどうなるかを計算したものである。

2 年齢階級別配偶関係

25～29歳女性の半数以上が未婚

配偶関係別割合を年齢階級別にみると、未婚率は若年層で高く、高齢者になるほど低くなるといった中で、高齢化が進み年齢別の人口構成が高年齢へとシフトした結果、平均の未婚率としては平成12年より減少しています。特に女性の未婚率は、25年前の昭和55年と比べると、25～29歳では24.3%から61.0%へ、30歳～34歳では9.8%から31.4%へと著しく上昇しており、出産の中心的な年齢層にある女性の未婚率の上昇は、出生率低下の要因の一つとみられます。

有配偶率は、若年層を中心に低下傾向を示していますが、高齢化を反映して、男性では75歳以上、女性では55歳以上の各年齢階級において、昭和55年より率が高くなっています。

死別率は、年齢が高くなるにつれ上昇していますが、近年の平均余命の伸長によりいずれの年齢階級でも低下傾向を示しています。昭和55年との比較では、例えば、70～74歳では男性が12.5%から7.0%へ、女性が57.2%から28.9%へと、それぞれ大幅に低下しています。

離別率は、主に中・高年層で高く、男性は55～59歳の5.3%、女性は55～59歳の7.2%で最も高くなっています。20年前と比べ、ほとんどの年齢階級で緩やかな上昇傾向にあります。(表4-2、図4-1)

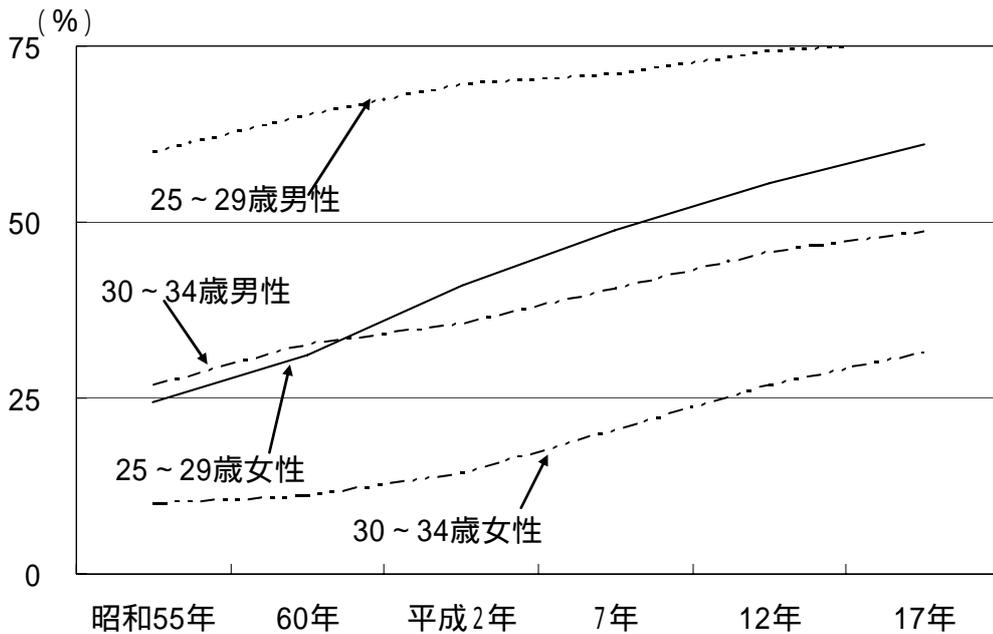
表4-2 男女、年齢(5歳階級)別にみた配偶関係別割合の推移

(昭和55年・平成12年・17年)

(%)

男女、年齢	未 婚			有 配 偶			死 別			離 別		
	昭和55年	12年	17年	昭和55年	12年	17年	昭和55年	12年	17年	昭和55年	12年	17年
男	32.4	35.1	34.0	64.1	58.6	58.9	1.6	2.0	2.2	1.2	2.6	3.0
15～19歳	99.5	99.6	99.7	0.4	0.4	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24	92.8	95.5	95.7	6.6	4.3	4.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2
25～29	60.0	74.1	75.5	38.9	25.2	23.8	0.0	0.0	0.0	0.5	0.7	0.7
30～34	26.9	45.5	48.6	71.4	52.8	49.7	0.1	0.0	0.0	1.0	1.6	1.6
35～39	11.4	27.2	30.4	86.1	67.4	63.2	0.2	0.1	0.1	1.5	2.4	2.7
40～44	6.1	19.6	22.8	90.7	74.8	70.5	0.5	0.3	0.2	1.8	3.1	3.6
45～49	3.9	16.3	18.0	92.2	77.0	74.7	0.8	0.6	0.5	2.2	3.8	4.3
50～54	2.9	12.0	15.5	92.5	80.0	76.1	1.5	1.1	0.9	2.3	4.5	4.8
55～59	2.1	7.5	11.8	92.4	83.0	78.6	2.5	2.0	1.7	2.2	4.9	5.3
60～64	1.5	4.7	7.7	91.7	84.8	81.7	4.2	3.3	2.9	1.9	4.8	5.2
65～69	0.9	3.1	4.8	89.5	85.7	83.8	7.4	5.1	4.5	1.7	3.7	4.4
70～74	0.8	2.1	3.2	84.6	84.1	83.7	12.5	8.2	7.0	1.5	2.7	3.4
75歳以上	0.9	1.2	1.8	69.7	75.1	76.1	27.3	17.9	16.5	1.4	1.6	1.9
女	21.9	25.7	24.7	66.7	59.9	59.4	8.9	9.7	10.2	2.2	3.8	4.6
15～19歳	99.0	99.2	99.2	1.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20～24	78.1	90.9	91.3	21.5	8.7	8.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.6
25～29	24.3	55.5	61.0	74.6	42.8	37.2	0.1	0.1	0.1	0.9	1.6	1.6
30～34	9.8	26.6	31.4	88.2	70.1	65.1	0.3	0.1	0.1	1.6	3.0	3.3
35～39	5.6	14.2	17.9	91.2	79.9	75.4	0.8	0.4	0.3	2.3	4.4	4.9
40～44	4.4	9.1	12.3	91.0	84.2	79.4	1.8	0.9	0.7	2.7	4.9	6.3
45～49	4.7	6.8	8.7	88.1	84.7	82.0	3.8	1.8	1.5	3.2	5.8	6.7
50～54	5.1	5.8	6.7	82.9	83.4	82.3	7.6	3.4	3.0	4.1	6.4	7.0
55～59	4.1	4.4	5.8	75.4	81.6	80.3	15.4	6.9	5.5	4.6	5.9	7.2
60～64	2.5	3.9	4.4	65.0	77.0	77.4	27.7	12.7	10.5	4.0	5.1	6.5
65～69	1.8	4.3	3.9	51.9	68.6	71.2	41.8	21.1	18.0	3.3	4.5	5.4
70～74	1.5	4.6	4.2	37.3	55.8	60.4	57.2	33.3	28.9	2.6	4.3	4.5
75歳以上	0.9	2.7	3.7	16.0	25.9	29.8	79.2	64.4	59.5	1.9	3.2	3.6

図4-1 特定年齢における男女別未婚率の推移（昭和55年～平成17年）



全国より高い横浜市の未婚率

50歳未満の年齢階級別未婚率を全国平均と比べると、平成17年では、女性の30～34歳と35～39歳を除き、いずれの年齢階級においても本市のほうが高くなっています。

男性は全体で全国より2.6ポイント高く、特に25～29歳で4.1ポイント高くなっています。一方、女性は全体で全国より1.5ポイント高く、20～24歳において2.6ポイント高くなっています。（表4-3）

表4-3 年齢（5歳階級）別未婚率の比較（昭和55年・平成12年・17年）（%）

男女、年齢	昭和55年			平成12年			平成17年		
	横浜市	神奈川県	全国	横浜市	神奈川県	全国	横浜市	神奈川県	全国
男									
15歳以上計	32.4	32.4	28.5	35.1	35.9	31.8	34.0	35.2	31.4
15～19歳	99.5	99.5	99.6	99.6	99.6	99.5	99.7	99.6	99.6
20～24	92.8	92.8	91.5	95.5	95.2	92.9	95.7	95.5	93.4
25～29	60.0	60.0	55.1	74.1	74.2	69.3	75.5	75.8	71.4
30～34	26.9	26.2	21.5	45.5	46.6	42.9	48.6	50.6	47.1
35～39	11.4	10.7	8.5	27.2	28.3	25.7	30.4	32.4	30.0
40～44	6.1	5.8	4.7	19.6	20.1	18.4	22.8	24.6	22.0
45～49	3.9	3.7	3.1	16.3	16.5	14.6	18.0	18.9	17.1
女									
15歳以上計	21.9	21.7	20.9	25.7	25.7	23.7	24.7	24.9	23.2
15～19歳	99.0	98.9	99.0	99.2	99.2	99.1	99.2	99.2	99.1
20～24	78.1	78.6	77.7	90.9	90.2	87.9	91.3	90.7	88.7
25～29	24.3	24.2	24.0	55.5	55.4	54.0	61.0	60.9	59.0
30～34	9.8	8.9	9.1	26.6	26.4	26.6	31.4	32.1	32.0
35～39	5.6	5.1	5.5	14.2	13.7	13.8	17.9	18.3	18.4
40～44	4.4	4.1	4.4	9.1	8.9	8.6	12.3	12.3	12.1
45～49	4.7	4.5	4.4	6.8	6.4	6.3	8.7	8.6	8.2

3 行政区の配偶関係

臨海部で未婚率が高く、郊外で有配偶率が高い

未婚率を行政区別にみると、最も高いのは男性、女性ともに神奈川区で、それぞれ41.4%、28.8%となっています。反対に最も低いのは男女とも都筑区でそれぞれ28.6%、21.2%となっています。また平成12年と比べると、神奈川区と中区の男女を除き、未婚率は低下しています。

一方、有配偶率をみると、最も高いのは男女とも都筑区でそれぞれ65.7%、67.2%となっており、反対に最も低いのは、男性では中区の49.4%、女性では西区の51.6%となっています。平成12年と比べると、有配偶率が上昇したのは、男性が11区であるのに対し、女性は5区だけとなっています。

このように、本市の未婚率は臨海部とその周辺の区において高く、有配偶率は郊外の区において高くなっています。(表4 - 4)

表4 - 4 行政区、男女別未婚率及び有配偶率(平成12年、17年) (%)

行政区	平成12年				17年			
	男		女		男		女	
	未婚率	有配偶率	未婚率	有配偶率	未婚率	有配偶率	未婚率	有配偶率
横浜市	35.1	58.6	25.7	59.9	34.0	58.9	24.7	59.4
鶴見区	38.4	53.9	25.7	58.0	37.4	53.3	25.1	57.6
神奈川区	41.3	51.6	28.6	54.9	41.4	51.3	28.8	54.1
西区	40.0	50.8	28.8	51.5	38.7	51.4	28.7	51.6
中区	34.4	48.6	26.9	53.3	37.1	49.4	27.0	53.6
南区	36.0	54.8	26.6	54.5	34.6	55.8	25.6	54.5
港南区	32.3	61.8	24.6	61.8	32.3	61.3	23.6	60.8
保土ヶ谷区	36.2	57.5	25.8	58.3	35.2	57.2	24.8	57.5
旭区	33.0	61.5	24.4	61.2	31.5	61.0	23.0	59.9
磯子区	33.8	59.9	25.3	58.7	32.0	60.4	24.2	57.9
金沢区	34.3	60.9	25.8	60.7	32.8	60.7	24.4	59.8
港北区	39.4	55.4	28.6	58.5	37.8	56.2	27.8	58.3
緑区	33.7	60.7	24.4	62.0	33.5	60.8	23.9	60.9
青葉区	33.8	62.3	26.2	63.8	31.1	64.1	24.8	63.5
都筑区	30.1	65.9	21.6	68.2	28.6	65.7	21.2	67.2
戸塚区	34.4	60.6	25.1	61.7	32.0	62.6	23.2	62.2
栄区	32.4	63.0	25.7	61.6	30.2	64.3	23.3	62.3
泉区	30.6	64.6	22.6	64.0	29.7	64.6	21.9	62.9
瀬谷区	33.7	61.0	23.7	61.5	32.3	61.0	22.0	60.2